

建設業界では、ダンピングによる激しい低価格競争の中で、元請けのゼネコン各社は、協力業者である専門工事業と痛み分けともいえる対応を行ってきた。この競争激化による協力業者へのしわ寄せは、各職技能者の仕事内容や賃金に大きな影響を与えている。専門工事業者は、ディベロッパーやゼネコンの破たんによる

ありで、倒産がさらに増える可能性も否定できない。専門工事業は、企業規模が比較的脆弱(せいじやく)で、下請企業が多く、発注者が破たんした時、直接その影響を受けることになる。また建設業界では、建築技術や高度な建築技能が目ましく進歩、発展しつつある中で、建築生産活動に携わるわれわれが本当に目を向

けなければならないものは、この厳しい時代の中における建築の実際をどのようにとらえるかということに常に考えておかなければいけない。

左官仕上に関する材料と施工は、低迷する建設業界の中で、需要という点においては上向きであると考えることができ

る。左官材料は建築技術の進歩と科学の発達により産み出された新建材のありで、日陰の時代を送ってきた。

また、左官伝統工法に使用する材料の調査やそれを施工することのできる多くの熟練技能者が姿を消してしまった。しかし、近年建設業界のみならず、一般家庭にも環境問題やエコ志向といったことが浸透してきており、左官材料が見直され始めている。1980年代から建築材料によるシックハウス症候群等の、いわゆる現代病という社会問題が取りあげ

湿式仕上と左官の復権に向けて

わたしの提言

られるようになった。そこで、見直され始めたのが漆喰等の自然素材でつくられる無機質系の建築材料であった。漆喰は、石灰を主成分とし吸放湿性および対候性が高く、1年を通じて室内環境を一定に保つことや外壁における風雨から建物の構造体を守ることでできる、日本の風土に合った湿式建築材料である。漆喰は、住宅から伝統的建造物まで、施工する部分が広範にな

りがちであり、材料の調査から、混練り、こて塗り作業までを左官熟練技能者が行わなければならない。もちろん、漆喰の施工は、熟練した上級左官技能者に施工を委ねることが最も重要であることはわかっているが、漆喰を採用する建築主や設計者はいまだ少ないのが現状である。

近年、建設業界では「仕事の段取り、とりまとめ」といった施工管理等の建設現場におけるマネジメントの技術有する専門工事業の上級左官技能者の職務が重要とされている。現場での施工管理技術者に対しては、施工方法の提案を行い、他職種の上級職長に対しては、作業間工程の連絡調整を行い、部下の技能者に対しては、適切な指導や統率を行う、登録左官基幹技能者の確保・育成・活用が始まっている。登録左官基幹技能者は、日本左官業組合連合会が主体となって教育・育成を行っている。この登録左官基幹技能者が、自然素材である漆喰の良さを建築主や設計者および建築施工管理技術者に技術提案を行うことと、既調合漆喰を製造する湿式建材メーカーとの調合方法や使用箇所および施工方法を十分に検討し合つことが重要である。また、各湿式建材メーカーは、左官基幹技能者との意見交換を入念に行い、建築主、設計者や施工管理技術者へ漆喰等の使用を促してもらうことを一つの方法として考えていただきたい。

ものつくり大学
建設学科教授

三原 ひとし
みはら

